

# 大東西小だより

学校目標 明るく 元気に 美しく

川越市立大東西小学校通信  
第7号 児童数：552名  
令和5年 9月28日(木)  
校長 米塚 貴洋

## 学習状況調査結果と本校の学校研究について

令和5年度埼玉県学力学習状況調査（4年生以上5月実施）及び令和5年度全国学力学習状況調査（6年生4月実施）の結果が、学校へ届きました。本校全体に関わる結果（正答率・伸びた児童の割合）は下表のようになりました。（本校正答率が、県及び市正答率より低いものは網掛け）

埼玉県学調・正答率%（国語）

	4年	5年	6年
本校	60.0	57.6	53.9
川越市	62.2	60.1	58.0
埼玉県	63.6	62.7	60.8

埼玉県学調・正答率%（算数）

	4年	5年	6年
本校	61.0	58.4	49.9
川越市	61.6	58.6	53.4
埼玉県	63.9	63.0	56.5

6年全国学調・正答率%

	国語	算数
本校	65	58
埼玉県	68	62
全国	67.2	62.5

埼玉県学調・昨年度から伸びた児童の割合%（国語）

	5年	6年
本校	65.2	75.8
川越市	72.7	73.0
埼玉県	80.2	77.7

埼玉県学調・昨年度から伸びた児童の割合%（算数）

	5年	6年
本校	65.2	66.7
川越市	57.1	53.6
埼玉県	67.0	57.7

埼玉県学調の結果を見ると、正答率で市及び県を下回る結果となりました。しかし、昨年度から伸びた児童の割合（同じ児童を比較し1年後に学力が伸びた児童の割合）では、5年生の国語以外は市や県を上回り、算数では5・6年ともに全体の65%以上の児童が学力を伸ばすことができました。

伸びている児童については、学校での学習指導や家庭学習、子供たちの努力等が成果として表れてきているといえます。このような学力調査等では、自力で問題文を読み取る力が必要です。しかし、短文は読めても、まとまった文章を読み取るとなると個人差が大きく、その読解力不足が本校の課題として挙げられます。また、読解力以前に、読むこと自体に時間を要し最後の設問までたどり着かない児童もいます。問題を読み取ることができないと自分の答えを持てなかったり自分の考えに自信を持てなかったりして、書いたり発表したり話し合ったりといった表現力の低下にも影響します。そこで、本校では、今年度から児童一人一人の読解力を高めるために、下記のように研究主題を設定し、全職員で学校課題研究に取り組んでおります。

- 1 研究主題 「自ら考え、共に学び合う児童の育成」～国語科「読むこと」の学習を通して～
- 2 目指す児童像 ・文章の読み方を理解し、思いや考えを読み取ることができる子  
・自分の思いや考えを互いに言葉で伝えることができる子

児童の力を高める手立ての一つとして「対話の三点セット」に取り組んでおります。例えば、物語文の問題で「主人公の気持ちを書きなさい。」という設問に、なんとなく想像しただけで書いてしまう児童は少なくありません。このような設問は、「文章を正しく読み取れているかどうかを問う問題」なので、文中にその根拠となる言葉や文があります。そこで、授業では、「その根拠となる言葉や文を見つけ出すこと」「見つけ出したら、その理由を話せること」を指導しています。これにより、児童は「主人公がなぜそのような気持ちになったのか。」について、根拠をもとに明確にすることができます。

しかし、読むこと自体に慣れていない児童は、その根拠となる文を見つけることに苦労しています。ご家庭では、毎日音読カードを活用して音読に取り組んでいただいておりますが、読み方がたどたどしい場合には一緒に読んだり、文節の区切りを意識して読む等のアドバイスをしたりしていただくと幸いです。

学習状況調査の個人結果票につきましては、10月6日に通知表ファイルに入れて返却いたします。お子さんの結果に合わせた「学習に関するアドバイス」や「復習シートへリンクするQRコード」も記載されますので、今後の学習への取り組みの参考にしていただければと思います。これからも学力向上に向けて、学校と家庭が連携した取組を進めていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

